

長崎大学長の業務執行状況の確認について

長崎大学学長選考会議は、長崎大学学長選考会議規則（以下「規則」という。）第2条の3に基づき、長崎大学長の業務執行状況について、下記のとおり確認した。

記

I 学長の氏名及び任期

- (1) 氏名 河野 茂
- (2) 任期 平成29年10月1日から令和2年9月30日まで（3年間）

II 確認の時期及び方法等

(1) 確認の時期

学長選考会議（平成31年3月22日）において、学長の任期の中間時点で実施することとしたため、令和元年6月24日（月）に学長選考会議を開催し、学長の業務執行状況の確認を行った。

(2) 確認用資料

- ① 学長業務の執行状況について
- ② 求めるべき学長像
- ③ 抱負（学長選考の際に学長が提出したもの）
- ④ 平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果及び報告書
- ⑤ 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）
- ⑥ 平成29年度監事監査報告書
- ⑦ 平成30年度監事監査報告書（案）

(3) 意見の聴取

- ① 規則第2条の3第1項後段の規定に基づき、学長に対して意見を聴取した。
- ② 規則第7条に基づき、監事に出席を求め意見を聴取した。

III 確認の結果

(1) 要旨

長崎大学学長選考会議は、河野 茂 学長の業務執行状況について、平成29年10月1日以降の実績等に関し、学長、監事からの意見聴取、及び資料による確認を実施した結果、次のとおり学長として適切に業務を執行していると認める。

- ・ 本学における教育研究活動等について、これまでの歩みを踏まえ、更に発展させるべく適切かつ効果的に運営している。
- ・ 本学の将来像に関する基本方針を示したうえで、強力なリーダーシップを発揮し各種施策を講じており、着実に成果を出すことができている。
- ・ 残る在任期間において、学長としての業務を適切に執行し、本学の将来像に関する基本方針の実現、第3期中期目標及び中期計画の達成に向けて、引き続きリーダーシップを発揮しつつ、大学全体が一体となって取り組まれることを期待する。

(2) 特筆すべき成果

- ① 熱帯医学・グローバルヘルス研究科を核として、博士教育課程リーディングプログラムの実績を基盤に構築した5年一貫教育の大学院プログラム「世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム」が卓越大学院プログラムに採択され、質の高い教育プログラムを実施していること。
- ② AI、ビッグデータ、IoTなどの急速な情報技術革新に伴う、「データ・AI人材」の育成ニーズを踏まえた人材育成に取り組むべく、情報データ科学部の設置申請を行ったこと。
- ③ 感染症に関する教育研究及び人材育成を通じて世界の安全・安心に貢献することを目的として建設する、高度安全実験（BSL4）施設の着工に漕ぎ着けたこと。

(3) その他の成果

【組織・運営】

- ① 従来の学部や研究科等の枠を超えて、学際的研究活動の促進及び先進的な学位プログラムの創設を可能とするため、生命医科学域に加え、総合生産科学域、人文社会科学域を設置し、教員組織を改組したこと。
- ② 役員を中心とした法人運営を強化するため、新たに学域長を執行役員として配置するなど、執行部と部局等との円滑な運営体制を構築したこと。
- ③ 学長のシンクタンク機能を充実させるため、政策企画室を立ち上げ、学長補佐に任命した若手教員を配置したこと。

【教育・研究】

- ① 多文化社会学研究科多文化社会学専攻（修士課程）を平成30年4月に設置し人材育成に取り組むとともに、多文化社会学専攻（博士後期課程）を設置すべく、設置申請を行ったこと。
- ② 本学の学術研究及び教育活動の活性化等を目的に、塩野義製薬株式会社との包括連携協定を締結し、マラリアの予防、診断及び治療に必要な研究を開始したこと。

【社会・地域貢献】

- ① 地元企業等と連携し、起業家精神を涵養するアントレプレナー育成事業や長崎ブルークスループプロジェクトに取り組んでいること。
- ② 地場企業である株式会社大島造船所と包括的連携協定を締結し、船舶海洋工学関連人材育成や関連する研究・開発、地域貢献のための取り組みを開始したこと。

(4) 課題・懸案事項等

- ① 18歳人口の減少等に対応する大学の生き残りを賭けた大胆な改革
- ② 外部資金の獲得強化、西遊基金の安定的運用等、強固な財政基盤の確立
- ③ 長崎地域の活性化につながる産業界等への貢献
- ④ 外国人留学生受け入れ増、日本人学生の海外留学生増等へ繋げる更なる取り組み
- ⑤ 効果的な広報活動

以上